代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 685　2024年11月号
1部60円
友の会会員は会費に含まれています
発行　東京勤労者医療会代々木病院
院長　河邉　博正
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

医療・介護・福祉に国の予算増額を

いのちまもる9・26総行動

9月26日午後、国に対して医療・介護・福祉の予算増額を求める「いのちまもる総行動」が東京・日比谷野外音楽堂で行われました。全日本民医連、保団連、日本医労連などでつくる実行委員会が主催し、現地で240人の参加、200ヶ所のオンラインを合わせ3100人（主催者発表）が参加しました。勤医会からは職員、友の会合わせて57人、代々木地域からは、職員15人、友の会8人の総勢23人が参加しました。

はじめに日本医労連の佐々木悦子委員長の主催者あいさつで「人員不足で現場の働き方が厳しくなるなか、政府の医療・介護規制緩和策は許せない」と指摘し、「ご一緒に医療・社会保障の拡充で命と人権を守る政治への転換を求めよう」と訴えました。

集会では、松元ヒロさんのトークライブ、また日本共産党、立憲民主党、れいわ新選組の国会議員がかけつけ連帯のあいさつがありました。各地域・団体からのリレートークでは、最初に豪雨災害に見舞われた震災被災地の能登地域の参加者から「地震からの復旧の矢先に、豪雨災害が生活基盤を破壊した。こんな時こそ国に公的資金を使ってほしい」と切実な訴えがありました。医療と介護の現場からは、東京医労連の看護師が人手不足と低賃金構造の解消を訴え、東京民医連の職員が訪問介護の経営危機や倒産、人手不足の実態を訴え、それぞれから「社会保障にもっと予算を回す」ことを求める訴えがありました。その他、保険医協会からは「現行の健康保険証を残せ」との訴え、保育現場からは「保育の充実」を求める訴えがありました。最後に厚労省に向かってプラカードで「いのちまもる」とアピールをしました。

集会後は、日比谷野外音楽堂から銀座を抜けて東京駅まで、「医師・看護師を増やせ」、「賃金の大幅な引き上げを」、「現行の保険証をなくすな」、「戦争する国づくり反対」とコールしながらパレードしました。

医療従事者からの訴え

厚労省に向かってアピール

経営状況はかつてない困難
医療・介護施設が崩壊状況

医療機関、介護事業所の経営状況は、かつてない困難に直面しています。長引くコロナ禍で医療・介護の現場は疲弊し、さらに異常な物価高騰の進行があり、医療・介護経営の基盤は揺らぎ、医療崩壊・介護崩壊といえる状況が生まれています。

23年度の医療機関の倒産は、55件（病院3、診療所28、歯科24）と過去最多でした（帝国データバンク調査）。さらに9月の帝国データバンク調査では、24年1月～8月までに、病院4件、診療所20件、歯科医院22件の計46件発生し、すでに前年の年間件数（41件）を上回っていると公表しました。24年度診療報酬改定では、改定財源のほとんどは賃上げ対応に用いられ、引き上げられた食事療養費の基準も、費用増で厳しい病院経営の改善には結びついていません。また看護配置7対1病棟の「重症度、医療・看護必要度」の見直しや地域包括医療病棟の創設により、医師の働き方改革の始まりとともに、地域の救急医療体制や急性期入院医療の再編など、

（2面へ続く）

渋谷区「特定健診」、「後期高齢者医療健康診査」を受けましょう

渋谷区の「特定健診（40歳～74歳）」、「後期高齢者医療健康診査（75歳以上）」を受けましょう。年度内（4月1日～翌年3月31日）に1回無料で受診できます。受診時期に渋谷区から「健康診断」の受診券が送付されます。誕生月により、受診時期が異なりますので、ご確認のうえ受診忘れのないようご注意ください。

千駄の萱

不思議な秋である。さすがに朝晩はそれなりに気温が下がるが、日中は夏を思わせる暑さが続き、半袖の人がかつてなく多く、紅葉もなかなか姿を見せない。この号が出る頃には千駄ヶ谷駅前の銀杏はお化粧しているだろうか▼そんなこの秋、化粧直しにてんてこ舞いなのが自民党である。裏金発覚から始まった一連の「政治と金」問題は、派閥解体、岸田政権退陣へと進み、「与党内野党」と揶揄されていた石破氏が総裁・首相に就くに至った。権謀術数渦巻く自民党内でどういう権力闘争が起きたのかは判らないが、明らかにイメージを変えたいという動きであり、真剣に自民党を変えようという化学変化には見えない。自民党きっての理論派と言われる石破氏にしても、数の力に負けたのかすでにブレブレである。それでも、何も考えていないように見えた岸田氏よりマシに見えるところが狙いかもと勘ぐってしまう。首相就任後、史上最短で解散総選挙に踏み切ったのは一つの暴挙であるが、その審判結果はどうか。お化粧に惑わせられる事無く、化けの皮を剥いでやりたいものである。（ひ）